

寺井校下女性会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和8年1月27日（火）19:00～19:50

会 場 寺井地区公民館 202会議室

参加人数 11人

○意見交換

（のみバスGO！アプリについて）

【会長】毎年、市政懇談会での提言について皆さんにお聞きしている。その中で、給食センターと全天候型遊戯施設については提言として挙げた。今日はその他の内容についてお聞きしたい。まず、栗生町の「のみバスGO！アプリ」についてである。「路線が分からなくても、出発地と目的地を入力でき、ルート検索がもっと簡単にできる機能があるとよい」という意見であった。

【市長】おっしゃるとおりである。

【参加者】簡単にルート検索できるイメージがあったが、実際に使ってみると、結局どのルートに乗ればよいのか分からなかった。

【市長】結論として、のみバスGO！アプリではルート検索ができない。路線名と停留所を入力しないと検索できない仕様であり、簡単に変更できない状況である。「Googleマップ」や「駅すばあと for web」でルート検索が可能のため、試してほしい。費用はかかるが、将来的にはのみバスGO！アプリを改善したいと思っている。

（スクールバスについて）

【会長】続いて、栗生町のスクールバスについてである。「寺井地区に居住する生徒が小松方面の高校、小松商業、小松市立、小松工業などへ通学する際、現状では公共交通機関の便が悪く、生徒本人はもとより保護者にとっても負担となっている。各学校も関係してくる話なので難しいとは思いますが、通学時間の短縮と安全確保のためにも、寺井地区から小松方面の学校への巡回スクールバス運行を要望する」という内容である。

【市長】これもご指摘のとおりで、要望が多い。路線バスは利用者が少なく採算が合わないことや、運転手の確保が難しいことから減少している。うちの子どもが高校のとき、最初はバスで通うと言っていたが、一度妻が車で送ったところ、その後は送迎が続く状況になった。朝は始業時間が大体同じだが、下校は部活動等で時間が合わず、公共交通での対応はハードルが高い。運転手不足の中で、一般の人が運転する車に少額で希望者を乗せるライドシェアの取り組みを行っている。例えば栗生地区で、同じ学校に通う生徒の保護者が順番に送迎する仕組みを作った場合、利用されるか、意見を伺いたい。

【参加者】乗せる側は責任を負う必要があり、良いアイデアとは言いづらい。当番制にしても、できる人とできない人がいて偏りが出る。金銭のやり取りがあっても、それ以上の責任が生じる。子どもの安全面を考えるとなかなか難しい。

【市長】積雪で今日も寺井中学校への送迎の車が多かった。子どもを降ろす場所はかたかご広場と決まっているが、8台程度しか駐車できず、出てくる車を待つて駐車する状態となり、大渋滞になっている。

【参加者】その結果、ルール違反をして別の道に車を止め、子どもを降ろす人もいる。自分たちの時代は歩いて通うように言われていたため、考えられない状況である。通学のことまで考えて高校を選べというのは難しいが、今はある程度考える必要もあると思う。娘が高校に入学したときにコロナが流行し、北鉄バスの運転手が感染したと聞いて不安になり、最初に車で送ったところ、そのまま送迎が続いた。スクールバスがあったが、部活動のため、朝練や放課後の練習があり、スクールバスの時間に合わなかった。娘とは自分で通うと約束していたが、結果として3年間ほぼ送迎した。

【参加者】小松明峰高校は学校がスクールバスを出していたため、上の子は利用した。能美市から補助があり助かった。小松方面は利用者が少なく運行できなかったが、能美市経由はとても便利だった。下の子は小松市立高校に通っていて、夏はバスで行くが、雪が降ると父親の出勤に合わせて6時台に行き、学校で待っている。送迎が難しい家庭はどう対応しているのかと思っている。

【市長】スクールバスは能美市全域の課題であり、多くの方から要望がある。一方で公共交通として継続的に運行することは難しい。辰口地区の一部では冬季バスを運行しているが、夏も暑いので運行してほしいという声もある。代替案としてライドシェアの可能性を伺ったが、難しいということか。

【参加者】同じ学校に通う子どもの保護者同士で送迎し合っている家庭の話は聞いたこと

があるが、ライドシェアとして不特定の子どもを乗せる形は難しいのかもしれない。

(街灯について)

【会長】小杉町からは街灯が暗いという意見が3年連続で出ており、街灯は町会管理のため町会長に伝えてほしいと案内してきたが、今年も提言として挙げた。やはり暗い場所があるということか。

【参加者】明るいとは言い難い。

【会長】暗い場所があるが、町会では対応が難しいのかと思い、本日話題に挙げた。

【参加者】新しく電柱を立てず、既存の電柱から電線を引いて電気を取り込む家が増えたため、電柱の配置がまばらになり、街灯もまばらとなっている。寺井町に比べると暗い。

【市長】まずは町会長に相談してほしい。

【参加者】町会の議題に出ていないため、伝えてみる。

(大長野第2体育館について)

【会長】続いて、小杉町の大長野第2体育館についてである。「老朽化などで使用不可となっている大長野第2体育館の運営や、今後どうなるのかを知りたい」という意見である。

【市長】大長野第2体育館は老朽化が進み、立ち入りは危険な状態である。一方で解体にも費用がかかる。また、さまざまな物品を保管する場所も必要であるため、現状のままにしている。

【参加者】強風などの影響で、徐々に破損が進んでいる。割れや破損も見られ、大丈夫か心配である。

【市長】市民に迷惑がかからないよう保全していくので、安心してほしい。

(防災行政無線について)

【会長】次に、防災行政無線についてである。「設置場所や状況によって音声聞こえづらい。有線にしても聞こえない場合がある」とのことである。

【参加者】我が家の話である。小杉町は全体的に電波が届きにくいようだ。家の中で個別受信機の位置を変えると聞こえる家もあるが、我が家は全くだめで、家に穴を開けて線を通し、有線で個別受信機につないでいる。聞こえるときは聞こえるが、全く聞こえないときもある。天気が悪いときは特に聞きにくい。

【市長】一度調べてみる。聞こえにくいという声を受け、数年前に無線設備を更新し、聞こえないことがなくなったと聞いていた。

【参加者】我が家も聞こえにくく、相談したところ「窓際に置いてください」と言われ、窓際に置いたら聞こえるようになった。

【参加者】我が家はどうしても聞こえず、電波を調べてもらったが、どうにもならないと言われたため、工事をして線を通した。

【市長】聞こえにくい問題は解消したと聞いていた。防災行政無線は重要であり、屋内だけでなく屋外にいる人にも届くよう屋外スピーカーも取り換えた。加えて、防災行政無線はその場にはないと情報を得られないため、能美市公式LINEやのみメールを導入し、文字情報としてどこにいても受け取れるようにした。

(長野学童について)

【会長】次に、牛島町の長野学童についてである。「子どもが長野学童を利用している。新しくきれいな施設だが、寺井学童に比べると遊べる空間が少ない。夏休みなどの長期休暇時に長時間利用する子どもたちが楽しく過ごせるようにできたらうれしい」という意見である。

【市長】ご指摘のとおりである。現在は保育園の遊戯室をできるだけ使ってもらえるようにしているので、それで了承していただけないか。

【参加者】保育園が優先のため、保育園の行事があると使えない。

【市長】長期休暇のときはできるだけ遊戯室を使ってもらえるようにしているので、理解いただきたい。

【参加者】なぜ外で遊べないのか。

【市長】夏は暑いからである。熱中症警戒アラートが出るとプールにも入れない。私の子ども時代は、夏休みにプールに入って、近所の神社で夕方まで遊んでいた。今の子どもは大変だと思う。

【参加者】寺井中央児童館に行くと広くて楽しく、うらやましく感じる。

(市内飲食店の広報紙掲載について)

【会長】次に、市内飲食店の広報紙掲載についてである。「能美市には素敵な飲食店が多い。職場で金沢や野々市の方から、今、能美市がアツイ！とよく言ってもらえる。能美市

に住んでいても知らない店が多いので、広報のみに毎月、今月のおすすめスポットを載せてはどうか」という意見である。2日ほど前にGoogleマップを活用した創業店舗紹介のチラシをいただいたので、後ほど配布する。二次元コードを読み込むとどんなお店があるか分かるようになっているため、活用してほしい。

【市長】「アツイ！」という話はどこで聞いたのか。

【参加者】金沢市で働いており、職場の金沢市や白山市の人が「能美市に最近カフェが増えている」と言っている。

【参加者】私は白山市で働いているが、同僚から「能美市のここのお店を知っているか？」「行きたいけれど、行ったことがあるか？」と聞かれる。

【参加者】寺井町のシフォンケーキ屋も、少し遅く行くと売り切れている。

【市長】能美市で店が増えている。皆さん、広報のみは読まれているのか。

【参加者】結構読んでいる人が多い。

【参加者】最近、広報紙が面白い。

【参加者】ペラペラとめくっているときにおしゃれな店が載っていたら読むと思う。

【参加者】お店の割引券がついていたら、読む人が増えるのではないかな。

【参加者】若い人はLINEで知らせた方が見ると思う。LINEでお店を紹介するとよいのではないかな。

【市長】能美市大図鑑というサイトで、能美市の魅力を一堂に紹介している。今後アップデートして新しい店も追加する予定なので、ぜひアクセスしてほしい。

(子どもたちと地域の大人の関わりについて)

【会長】次に九谷町からの意見である。「近年、先生や支援員の人手不足の状況が多く伝えられている。共働きの親も多く、加えて先生の忙しさで、子どもたちが十分に甘えられなかったり、話を聞いてもらえなかったりする場面が増えていると感じる。保育園の活動が始まる前や、小学校の長休み、昼休み時に、地域の人が子どもたちの遊び相手として、保育園、小学校に入れる仕組みを作れないか」という内容である。

【市長】学校協議会やスクールサポーターの存在は把握しているか。

【参加者】把握している。それとは別に、登録制でもよいので、空き時間に地域の人が学校に行き、子どもの遊び相手になり、子どもの気持ちを満たすという趣旨である。

【市長】時間帯はいつを想定しているか。

【参加者】小学校は長休みや昼休み、保育園は活動開始前の9時前である。補助をする人ではなく、ただ子どもの遊び相手や話を聞いてあげる人が必要である。

【市長】希望する人は多いのか。

【参加者】子どもが自分で求めている感覚はないが、子どもたちと接する中で満たされていない気持ちを感じる。保育園の補助に入っているが、先生が忙しくて子どもに十分関われないときに、上手に遊べない子としっかり遊んであげると、その日その子が落ち着いていた経験が何度かある。少し遊んであげる人がいるだけで子どもは満たされるので、地域の時間のある高齢者などに相手になってもらえるとよいと思う。

【市長】先生に確認してみる。

【参加者】職場の隣が栗生小学校で、休み時間に先生が子どもと一緒に走り回って遊んでくれている。すごく良いことだと思うが、先生も多忙なので地域の力を借りることができればよいと思っている。学校に行ける人がどれだけいるかは分からないが、開かれた感じになるとよい。

【市長】治安上の理由もあり、誰でも入れるようにはできないため、登録制にする必要がある。けががあったときの責任の問題もある。まずは先生に確認してみる。

(小学校の朝の受入対応について)

【会長】昔は朝どれだけ早く学校に行っても開いていたが、今は決まった時間でないと開いていない。朝、親が早く仕事に出る家庭が困っているのではないか。低学年のうちは夫の実家に子どもを連れて行き、そこから集団登校で通っていた家庭もある。テレビで朝学童の取り組みも紹介されていた。

【参加者】テレビでは、小学校低学年だと子どもに鍵を預けて仕事に行くこともできず、学校に子どもを預けたいが、朝7時前には預かってもらえないということだった。私の周りでは、実際に困っているという話は聞いていないが、保育園には早朝保育があるが、小学生になると困るので、その時間帯をどうすべきなのかと思う。

【市長】先生の働き方改革の問題もあり、難しい。

【参加者】部屋で預かるだけなら、教員免許がなくても、先ほどの話題で出ていた地域の人に見てもらえるとよいのではないか。

【市長】学校協議会やコミュニティサポーターに協力を求めて、可能かどうかを確認したい。学校のためならという熱意を持つ方もいるので、併せて確認する。

【参加者】私が先生に聞いたところ、そのような人が来てくれるとありがたいと言っていた。保育園の先生も忙しく、子どもを抱っこする時間がないこともある。小学校でも同様だと思う。子どもの心が満たされず、不登校につながるケースも感じられるため、相手をしてほしいと思っている人が関われる仕組みがあればよい。今、保育園の補助でも資格がないと入れないので、少し間口を広げてほしい。

(ドッグランの設置について)

【会長】ドッグラン設置についての意見も出ていた。和田山にもドッグランができたのか。

【市長】さらいに小型犬用のドッグランができた。

【参加者】夏の間は暑いので閉鎖されている。

【市長】和気の岩のドッグランは県内一と褒められている。無料だが、利用者から少しぐらい料金をとってもよいのではないかと、募金箱や協力金の箱を設置してはどうかという意見もある。視察時に利用者はどこから来たのか聞くと市外利用者も多い。無料であれだけの広さがあるドッグランは、津幡町の県民の森と能美市くらいではないかと思う。

【参加者】犬用おやつ機の自販機を設置すれば売上げになるのではないかと。

【参加者】飼い犬の食べ物にこだわる飼い主が多いのではないかと。

【市長】ドッグラン内で食べさせるのは難しいのではないかと。汚れの懸念もある。ただ、無料だからこそカフェを設置するなど、収益化の仕組みを考えてはどうかという提案もある。飼い犬を亡くしてしまい、亡くなるのがつらくて新たに飼えず、犬を見るためだけに来ている人もいます。

【参加者】小型犬用ドッグランに友だち同士で来て、犬は放し、自分たちは併設カフェで過ごしている動画をYouTubeでよく見る。そのような施設が能美市にもあったら良いのではないかと。作れそうな場所はあるが、問題は運営主体である。

(給食のアレルギー対応について)

【会長】市政懇談会で給食センターのことを取り上げたが、その提言を出したのは末信町であった。個別対応が難しいということだったが、給食に関するアンケートは年に何回か実施されているのか。

【参加者】給食センターになってから、味や量のアンケートは何回かあったと思う。

【参加者】いまだに給食の量が少ないという声を聞く。

【市長】おかわりは可能であり、管理栄養士が残菜量や味のチェックもしているため、量が少ないということは基本的にないはずである。

【参加者】小麦アレルギーの息子に関しては、アレルギーのある子はおかわりができない。アレルギー食のメニューがあってもなくても、最初に盛ったらおかわりができないようになっている。落としてしまっても、代わりの給食がない。

【市長】小麦が入っていないものでもだめなのか。

【参加者】だめである。安全面から仕方がない考えだとは思う。ただ、最初に給食をよそうときに、他の子のことを考えると、よそい過ぎてもいけないという気持ちもある。たまたま息子はたくさん食べるタイプではないが、運動量の多い体格の大きな子どもだと、なお難しい問題であると思う。

【市長】その話は把握していなかったため、調べる。

【参加者】おかわりできない対応が、学校によつてのルールなのか、能美市のルールなのかはわからない。

【市長】学校ごとに決められているのではなく、市のルールだと思う。小麦が入っているかは見ただけでは分からないこともあるため、そうしたルールになっているのかもしれない。

【会長】アレルギーがある場合、入学時に説明はあるのか。

【参加者】最初に担任や保健室の先生との面談がある。

【市長】小麦アレルギーは、症状が出るとエピペンが必要になるほど重くなることもある。

【参加者】息子は舌がしびれる程度で、アナフィラキシーショックまではないが、体調次第でどうなるか分からない。パンを触った手で戻した給食を食べるだけで症状が出る子もいるため、そういうルールになっているのかもしれない。

【市長】症状によって対応を変えた方がよい可能性もある。医師の診断書は出ているのか。

【参加者】毎年2月から3月に病院で書類を書いてもらっている。

【市長】アレルギーに触れただけでもだめなのか、それとも口に入れて舌がしびれる程度なのか、状態を示す項目は診断書にあるのか。

【参加者】診断書や学校に出す書類にも重症度を書く欄がある。

【市長】その点も含めて調べる。

【会長】アレルギーのある人が情報を得られるようになるとよい。他に意見はないか。

【参加者】個人的な意見となるが、私は給食費を無料にしなくてもよいと思っている。お

金を払うので良いものを食べさせたい。払える余裕がある人は多くいるので、本当に払えない人に手厚くした方がよいと思う。アレルギーがある子の家庭は、弁当を準備する必要があり、完全に無料ではない。給食に不満を言うくらいなら、お金がかかっても良いものを食べればよいのにも思う。

【会長】この意見は、例えばパンの日に、小麦を含まない米粉パンは高価にはなるが、お金を払ってでも用意してほしいという趣旨である。さまざまな意見はあると思うが、アレルギーのある人が集まって意見を言える場があるとよいと思う。私もアレルギー対応についていろいろ調べたが、きっちり分けてほしいという意見の親もいるようである。

【参加者】症状が重い場合は、机まで分けてほしいと思う親もいると思う。対応を統一しようとするなら、重い方に合わせる必要が出てくると思うので、なかなか難しい。

【会長】おかわりの件は調べて、返事がほしい。

○閉会